

Top of the world

ドバイ日本人学校 重堂真也

2024.3.18 No.3

関係各所の皆様

日頃より、大変お世話になっております。そして、大変ご無沙汰しております。ドバイ日本人学校派遣中（帯広市立大空学園義務教育学校所属）の重堂です。早いもので、長期派遣も2年目が終わりを迎えようとしております。

本校では、去る3月14日（木）に卒業式・修了式が実施され、現在は春季休業期間中となります。こちらでの業務（研修）は、今年度が2年目ということもあり、年間の見通しが立っていた分、昨年度よりも納得のいく結果を出せたことが多かったと感じております。また、私生活においても、そこまで不自由さを感じることもなく、色々なことを受け入れることができるようにになってきた一年間でした。喜ばしいこともあれば、残念なこともたくさんありましたが、振り返れば、全てが血肉となる、ここでしか学べない貴重な経験を今年度もさせていただいたと思う次第です。そして、国内でも海外でも、「学校は、どこに行っても変わらず学校」で、「子供は、どこに行っても変わらず子供」で、その上でここでしか経験できない「やりがい」「楽しさ」「困難さ」など、私生活上も含め、国内以上にそれらをリアルに実感できるのが、この長期派遣の醍醐味だと感じております。

次年度が派遣最終年度の予定ですので、最後の一年間はアンテナを高く張り、「まとめ」の意識だけでなく、引き続き「チャレンジ」の一年となるよう、後悔のないよう挑む所存です。

ここからは、今年度の業務（研修）で、特に印象に残ったものを2つ紹介させていただこうと思います。

1つ目は、校内研究です。「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成～自分で「決める」自分たちで「考える」学びを通して～」という研究主題・副主題の基に、研究を進めて参りました。今年度の取り組みで、いつでも他学級の授業を参観できるようにしたり、リフレクションの方法が新鮮なものであったりと、とても前向きな気持ちで取り組みました。その根底には、「極力負担感を感じさせず、いかに日常に組み込むか」というメソッドがあったことが大きかったです。働き方改革が叫ばれている昨今において、欠かせない要素であると感じました。また、派遣前からのコロナ禍もあり、私自身手探りであった「令和の授業スタイル」のようなものを、今年度は体現できたことも、大きな収穫でした。

（研究主任に許可をいただいた）、以下に今年度の「校内だより」を紹介いたします。年間を通して本校がどのような研究に取り組んできたかが把握できると思うので、ぜひお目通しいただけたら幸いです。

※別途資料として、研究収録を添付いたします。

Research in Dubai Japanese School

校内研究だより



校内研究担当の須賀です。これから1年間の研究・研修よろしくお願いします。校内研究・研修で私が心がけていきたいことは、職員みんなで「やりたい研究」をやることです。たくさんの先生方の知恵をいただきながらみんなで進めていきたいです。全国各地から集まってきた先生方の様々な考え方や指導方法などを積極的に吸収できる職場にしていきたいです。

楽しく有益なものにしていきたいので、よろしくお願いします。

・ 確認事項

テーマ 「自ら学ぶ、協働的に学ぶ」（「自ら学び、伝え合おう」から変更しました。）

目指す児童像

- 高い意欲をもって、主体的に学ぶ児童生徒の育成
- 試行錯誤しながら、挑戦し続ける児童生徒の育成
- 自他の考えを認め合い、他者と協働して課題を解決する児童生徒の育成

・ 職員会議では（学力部）

①校内研究だよりについて ②ミナレ情報交換 ③校外学習報告 ④ICT研修報告 +α

毎回、上記の話をさせていただきます。

・ 5月の校内研修

1 今年度の研究テーマについて

研究主題を考えました。

↓

「**主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成**」

この研究主題を提案した理由は、言語力【コミュニケーション力・語学力】、探究力【問題解決力・情報活用力】を育むためには、学びたい！調べたい！といった主体性を伸ばすことが基本となると思います。昨年度の反省も生かされ、主題としていいかなと思いました。（個人的に、それぞれの先生方の「学びたくなる授業のしくみ」に興味があります。）一方、協働的に追究としたのは、他者とコミュニケーションをすること、多面的に吟味すること、本質を見極めることに協働が必然的に行われるだろうと考えたからです。

2023年 校内研究

2023.5.12 (金) 13:00~

ドバイ日本人学校

プログラム

13:00~13:05 校長先生より

13:05~13:10 本日の日程確認

13:10~13:20 ワークショップ①

13:20~13:30 ワークショップ②

13:30~13:40 ワークショップ③

ワークショップの内容

研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」

研究主題について 考えていること (K) 分かっている実態 (W)
 やりたいこと (Y) この3つを出し合います。

※話し合うテーマについて、自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深める。急いで問題を解決したり結論を出したり、終わった後に合意形成ができていたりすることが目的ではない。

・自由に意見を言う ・雰囲気良く話し合う ・多くの知恵や考えを集め ・考えや認識を深める ・新たな気づきを得る
・相互理解を深める ・お互いの関係性の質を高める

【方法】

- ①5人1組で席に着く。
- ②10分間喋り、研究担当を除いて席を移動する。
- ③紙に意見やアイデア (K/W/Y) を書く。
- ④参加者全員で情報共有をする。

最後に発表はしません。自由に紙を見る時間をリフレクションとします。

13:45~13:50 UAE SSに関して情報提供

13:50~ 教頭先生より

13:55~ リフレクション 2年次の研究授業日程調整

●ワークショップをもとに副題を決めさせていただきます。

2023.5.19(金)

No.2

文責 須賀

校内研究だより

先日の校内研究でのワークショップありがとうございました。自分の考えを通すのではなく、相手の考えを取り入れる機会になったでしょうか。私は、みなさんの教育についての考えが聞けて楽しく思いました。その中で「子どもの主体性を引き出すには、まず自分自身（教員）が主体的に学ぶ」という考えがありました。どんどん教員の交流の場を設定していきたいと思います。『協働』の意味は「同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと」です。情報公開や情報共有を一部の教員の間ではなく、全職員で話し合っていきたいものです。

・ 確認事項

研究主題 「**主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成**」

・ 6月の校内研究

1 副主題について

～自分で「決める」自分たちで「考える」学びを通して～

先日のワークショップをもとに、副主題を考えました。

校内研究担当のメモによる
テキストマイニングです→

研究授業の日程です。

6月重堂先生 9月後藤先生・竹内先生
10月藤村先生 11月須賀
ぜひやりたい！という先生は須賀まで

先日のワークショップをもとに、副主題を考えました。
校内研究担当のメモによる
テキストマイニングです→

研究授業の日程です。
6月重堂先生 9月後藤先生・竹内先生
10月藤村先生 11月須賀
ぜひやりたい！という先生は須賀まで

～自分で「決める」自分たちで「考える」学びを通して～

この副題は、主に「決める」「できる」「テーマ」「子ども」「引き出す」などの言葉で構成されています。これらの言葉は、児童生徒の主体性を引き出し、協働的に探究し続けることを示すためのキーワードです。

2 提案について

① 他の先生の授業を気軽に見に行くことができる環境をつくる

(ウェルカムボード等を教室の外へ貼り出すと、子どもも驚かないかも・・・)

② 教室の外に協働的な場面や主体的な姿の写真、成果物等を掲示、発信する

(写真+価値語の掲示物を作成すると良いかも) ←菊池省三先生の実践

3 今後の予定

6月 日・・・重堂先生、研究授業

6月 日・・・ICTミニ研修『ロイロノートの使い方』

6月 日・・・ICTミニ研修『Kahoot！の使い方』

成績処理の方法について

1 研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～**2 主題設定の理由****(1) 今日的課題から**

児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、児童生徒の知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は諸外国から高い評価を得ている。しかし、直面する課題として、児童生徒の多様化や学習意欲の低下、加速度的に進展する情報化への対応の遅れがある。従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」の構築を目指している。それが、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現である。

「在外教育施設未来戦略2030」では、現地校・インター校に通う子どもが増加している現状から「選ばれる在外教育施設」「選ばれる日本人学校」づくりや、多様なニーズに応える教育実践や学校運営、在外教育施設における「令和の日本型学校教育の構築」が求められ、「選ばれる在外教育施設」づくりに向けた特色ある教育の研究開発の推進も必要である。

(2) 本校教育目標から

本校の教育目標は、「生きて働く力の育成」である。この目標は、知・徳・体の調和がとれ、海外における日本人学校としての特性を活かした、創意工夫あふれる教育活動を展開することにより、児童生徒の自己実現、社会に貢献する人材の育成を目指して設定されたものである。そして、「自主自立・心身の健康・国際性」の育成を通して、「笑顔いっぱい 一人一人が かがやく学校」を目指している。教育活動の展開において、言語力（コミュニケーション力、語学力）と探究力（問題解決力、情報活用力）の資質能力の育成を目指している。

(3) 児童生徒の実態から

本校は児童生徒の転出入が多く、5年以上在籍する児童生徒は少ない。小学1年生から一部教科担任制を導入し、派遣教員は2~4年で入れ替わるため、児童生徒を取り巻く環境は変化し続ける。友だちとの出会いと別れ、単学級・少人数でのきめ細かい指導、異学年との交流を通して学校生活を送っている。本校の児童生徒は素直で落ち着いており、平均して学習能力が高い。特に英語でのコミュニケーションがよくできる児童生徒が多い。

しかし、豊かな生活環境が原因なのか、素直で学習能力が高いのが原因なのか、与えられた課題には取り組むことができるが、指示待ちの児童生徒が多く、主体的に課題を見つけて考えることができる児童生徒が少ない。さらに、学力で二極化の傾向も見られ、協働の必要性を感じていない様子がある。そこで、自分で「決める」手立てとして導入や発問、自分たちで「考える」手立てとして場面設定やICT機器の活用方法を工夫することで、主体的に協働的な学びができる児童生徒を育成することが可能になると考える。

以上から、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒を育むために自分で「決める」学び（個別最適化学び）自分たちで「考える」学び（協働的な学び）が重要であると考え、研究主題を「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～」と設定した。

3 研究のねらい

自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒を育成する方法を追究する。

4 研究の仮説

授業を通して、自分で「決める」/自分たちで「考える」学びの機会を設定すれば、主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒が育つだろう。

5 研究の内容

(1) 「主体性を引き出す」の考え方

工夫した課題、考えて取り組むことができる場面設定によって、児童生徒が自ら課題意識をもち、「考えたい」「話したい」「伝えたい」という思いを引き出すことが必要である。つまり、見通しなく進めたり教師が進めたりするのではなく、本時は何に取り組むのか振り返りをもとに考え、自分たちで授業を進めることができる授業展開を組み立てることである。そして、全ての児童生徒が心の底から「ああ、おもしろかった」という言葉が自然に出てくる授業や自然に学習が進んでいく授業を目指していく。このように「主体性を引き出す」とは、「児童生徒が自ら学習に向かうために課題や場面設定、授業展開の方法を工夫すること」と捉えた。

(2) 「協働的に追究し続ける」の考え方

課題解決のために一人ではなく、二人以上で課題について考え、各々の能力や経験を活かし、試行錯誤しながら解決方法を考えることで、さらに思考が高次化していくと考える。そのためには、児童生徒が自ら互いの良さを認め合い、協働的になることの必要性を感じることが大切である。「協働的に追究し続ける」姿とは、「自分の考えと異なる考えを認め合ったり、課題解決後も更に深め合ったりする」姿と捉えた。

(3) 「自分で決める/自分たちで考える」の考え方

自分で「決める」とは、やってみたい気持ちをもとに、自分から「なぜ?」と考えたり、分からぬことを質問したり調べたり自主的に学習に参加することである。児童生徒が経験を振り返ったりこれからを見通したりしながら、自ら目標を立て、取り組んでいけるよう教師が指導を工夫していく。例えば、到達目標に対し目標を自分で決めること、導入や発問に対して自分の納得解を決めることなどである。

自分たちで「考える」とは、探求的な学習や体験活動などを通して、課題解決の方法を模索することである。その中で、多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重していくことが大切である。ICTを活用した学習活動も積極的に取り入れるなど、授業改善をしていく。例えば、課題解決に向けて他者と協働して解を見出していく活動、見通しをもとに各々の解を出し合い、最適解を導き出す活動などである。

上記を発達段階に応じて導入や発問、場面設定や学習活動を工夫していくことにより、本校の目指す「高い意欲をもって、主体的に学ぶ児童生徒の育成」「試行錯誤しながら、挑戦し続ける児童生徒の育成」「自他の考えを認め合い、他者と協働して課題を解決する児童生徒の育成」につながっていくと考えた。

校内研究

6 目指す児童生徒像

全 体	自分で「決める」自分たちで「考える」学びを通して主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒
-----	---

7 計画

8 研究の概要 (ねらいを達成するための手立て)

9 研究の成果と課題 (1) 成果 (2) 課題

10 研究のまとめ

参考文献・資料

中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 令和3年1月26日

文部科学省 「在外教育施設未来戦略2030～海外の子供の教育のあるべき姿の実現に向けて～」
令和3年6月3日

校内研究だより

ウェルカムボードの設置、ありがとうございます。組織として開かれた学校づくりって言葉がありますが、まずは学級が開かれてないと難しいと思います。入りやすい教室は雰囲気が温かいと感じます。あとは、ぜひ教室の外に写真（+価値語）を掲示してください。それを見て、教員が高め合え、児童生徒も高め合えるDJSにしたいなあと思っています。

さて、研究概要は読み込んで頂けましたでしょうか。簡単に解説したいと思います。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

・ 7月の校内研究

1 校内研究概要について

共通理解して頂きたいところを図式化しました。



2 今後の予定

- 6月15日・・・重堂先生の研究授業
- 8月30日・・・後藤先生の研究授業
- 9月1日・・・重堂先生と後藤先生の授業リフレクション
- ICTミニ研修
- 6月16日・・・データの共有について
- 6月20日・・・『ロイロノートの使い方』
- 6月23日・・・『スズキ校務の使い方』

校内研究だより

前回の職員会議で、構内研究概要について話す時間がなく、悲しかったです。（図式化も頑張ったのですが・・・）研究の内容の3つの捉え方は全員で共通理解し、研究していきたいので、まだご覧にならない先生は前回の校内研究だよりをご覧ください。校内研究だよりを印刷して頂いた先生、詳しく聞きたいと言ってくださった先生、ありがとうございます。これからも毎月、情報提供していきます。よろしくお願いします。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

・ 8月の校内研究

1 Padletにご記入ありがとうございます。

研究授業のリフレクション → 他の先生のリフレクションを見てリフレクション

→ リフレクションのリフレクション（略してリフリフ）

というように振り返りは続けていくと効果的です。

さらに、リフレクションを交流（リフレクション活動）をすると良いです。

できたら、リフレクション活動をフィードバック（価値付け）すると良いです。

リフレクションは「よし、やるぞ」という気合いは必要ありません。帰り道、シャワーを浴びながら、テレビを見ながらなどで良いです。何も考えずにPadletをちらっと見てみてください。

2 今後の予定

校内研究に関して、研修したいことのアンケート実施

8月30日・・・後藤先生の研究授業

9月1日・・・重堂先生と後藤先生の授業リフレクション

ICTミニ研修

8月22日・・・ロイロノート、カフートについて（30分予定）

校内研究だより

2023.8.25(金)

No.5

文責 額賀

まだまだ他の先生の授業を気軽に見に行くことができる環境づくりができるでないと実感しています。どうにか空き時間を有効活用して研修の時間にしたなあと思っています。「来てもいいですよ」とは言い易いけれど、行くことにちょっと抵抗があります・・・。まずは自分から!2学期は先生方の授業をたくさん見たいなあと思います。教室の外に協働的な場面や主体的な姿の写真、成果物等の掲示もよろしくお願ひします。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

Ⅰ 9月の校内研究

まずは、9月1日の授業リフレクションよろしくお願ひします。

(授業リフレクションの進め方については、校内研究チームで29日に話し合います。)
お願ひ

公開授業をする先生の一枚指導案は、必要に応じてアドバイスをもらいながら作成し、
額賀まで(紙かチャットで)ください。完成した指導案を
07校務分掌 / 001確かな学力保障部 / 2023 / 001校内研究 / 一枚指導案
に保存をお願いします。

2 今後の予定

校内研究に関して、研修したいこと

校内研究に関して

8月30日・・・後藤先生の公開授業
9月1日・・・重堂先生と後藤先生の授業リフレクション
9月21日・・・竹内先生の公開授業
9月22日・・・竹内先生の授業リフレクション
10月 日・・・藤村先生の公開授業
10月 日・・・額賀の公開授業

ICTミニ研修

9月8日(金)・・・ロイロノート
9月19日(火)・・・Canva

2023年 校内研究

2023.9.1 (金) 13:00~

ドバイ日本人学校

プログラム

13:05~13:10 校長先生より一言

13:10~13:15 本日の日程確認

13:15~13:20 ~~重堂~~先生、後藤先生が思いを語る。(未来志向型で)

13:20~14:05 リフレクション(計4回の話し合い)

リフレクションの内容

研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

【方法】

- ・肯定ファーストのリフレクション
- ・リレー質問による実践の掘り下げ
- 重堂先生の授業から学べること(Padletを見ながら)
★私が考える自分で「決める」/自分たちで「考える」学びとは
 - ・4グループに分かれて話し合う。
 - ・後藤先生へ10分間リレー質問を行う。
 - ・他のグループは●と★について話し合う。

今回は対話がメインです。

記録者は特に設けないので各自メモをするなどお願いします。
最後に発表はしません。Padletのリフレクション①を記入します。

14:05~14:10 NRT分析対策の見通し → 小学部・中学部に分かれる

14:10~14:25 NRT分析対策の役割分担

14:25~14:30 教頭先生より一言

14:30~ Padletにリフレクションを行う

NRT分析対策の今後の見通し

- ・9月22日(校内研究)NRT分析対策交換会 → 主観的から客観的な見方へ
- ・10月27日(職員会議)NRT分析対策起案

《リフレクション》 校内研究チームが進行

A 頼貫 佐瀬 教頭	B 磯川 竹内 教頭
C 伊藤 管原 藤村	D 片野 葛原 繁田 萩原

1回目 A 重堂先生の授業 B★ C 後藤先生 D★ 13:20~13:30

2回目 A★ B 重堂先生の授業 C★ D 後藤先生 13:30~13:40

3回目 A 後藤先生 B★ C 重堂先生の授業 D★ 13:45~13:55

4回目 A★ B 後藤先生 C★ D 重堂先生の授業 13:55~14:05

《NRT 分析対策》 小学部長・中学部長が進行

小学部	伊藤 磯川 重堂 頼貫 葛原 繁田 管原 校長
中学部	片野 後藤 萩原 佐瀬 竹内 藤村 教頭

《メモ》

校内研究だより

授業を見に来てほしいと思っている児童生徒もいます。ウェルカムボードを出し忘れると、「先生出してください」と言われます。自信をもって学習していますね。G1、G2、G3、G5がウェルカムボードの取り組みをしています。他の学年もぜひ、前向きな検討を!教室の外に協働的や主体的な姿の写真、成果物等の掲示も増えてきました。ありがとうございます。先生方が抵抗なく自由に入り出しきれる環境をつくりたいです。



・確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

1 10月の校内研究



余談で述べてある「ChatGPT」を使って、先日の校内研究後にみなさんがPadletに書いたりフレクションを5つのポイントにまとめてもらいました。

- 児童生徒は主体的にテーマを決め、発表することでのびのびと学ぶことができた。
- 児童生徒に主体性を委ねるアプローチは重要で、学びの実感を重視する必要がある。
- 授業づくりにおいて、共有の場面の設定や目的の明確化が大切だと感じた。
- 先生方の教育観やアイディアの共有が収穫であり、新たな視点が開かれ非常に有意義な時間だった。
- 先生たちは今後も互いに協力し、教育に関する議論と知識共有を継続したい。

2 今後の予定

校内研究に関して

10月25日・・・額賀の公開授業（算数）

11月2日・・・藤村先生の公開授業（G5図工）

ICTミニ研修

10月6日・・・Canvaを使ってみよう

10月10日・・・音声を活用した学習

10月31日・・・Teamsで協働学習

上記のまとめはAIによるものなので、他にもたくさんのヒントがPadletに眠っています。ときどき見て参考にしてください。

**重堂先生・後藤先生
公開授業お疲れ様でした**

2023年 校内研究

2023.9.22 (金) 13:00~

ドバイ日本人学校

プログラム

13:00~13:03 校長先生より一言

13:03~13:05 本日の日程確認

13:05~13:10 竹内先生が思いを語る。(未来志向型で)

13:10~13:25 リフレクション

リフレクションの内容

研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

【方法】

- 3グループで15分間よさの出し合いを行う。
- 竹内先生は5分ずつグループを移動する。

めあて

生徒目線、教師目線でよさを見つけて、つながりを見つけよう。
それぞれの目線でよさを出し合う。

↓
よさのつながりを見つける。

記録者は特に設けないので各自メモをするなどお願いします。
最後に発表はしません。Padletのリフレクション②を記入します。

13:25~13:40 NRT の情報交換会 →小学部・中学部に分かれる

13:40~13:55 学校評価質問検討会

13:55~13:58 教頭先生より一言

校内研究だより

一昨日くらいにふとを考えていたのですが、4月から一人一人「アクションリサーチ」をしていけば良かったなあと振り返っています。仮説を立て、実践を通じて評価と検証を行う研究方法です。私は、夏休みに「実践レポート研究会」というオンラインの会でその実践を話しました。主体性の引き出し方を深く考えました。ただやらされているだけか、主体的に演じているだけか、心の底から『本当にやりたい』と思う気持ちにできるだけ近づけたいと思っています。先生方の引き出し方をもっと知りたくなりました。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～

・ 11月の校内研究



11月17日に授業リフレクションがあります。

額賀と藤村先生の授業リフレクションを行います。よろしくお願いします。

→11月14日に校内研究チームで打ち合わせをしたいと思います。

※ 授業を公開したい先生がいらっしゃいましたら、額賀まで声をかけてください。

※ 4月に計画していた特別支援教育とMORALEducationの研修も時間があればしたいです。

Padletも振り返ってご覧ください。振り返ることでヒントを得られることが多いあると思います
リンク→ <https://padlet.com/DaiSensei/padlet-gccoyf45al1ezl2p>

2 今後の予定

校内研究に関して

11月2日・・・藤村先生の公開授業 (G5 図工)

ICTミニ研修

今後の方針が話されると思います。

校内研究だより

二年次の先生方の公開授業が一通り実施できました。ありがとうございました。今年度は、新たに研究主題を一から考え、主体性と協働的な学びにフォーカスして、それぞれの学年で工夫してきたと思います。このあと、研究のまとめに入ります。研究は（見通し）と（全員でやる）が大切だと思います。クラスでいう学級目標と同じだと思います。目標達成のために見通しをもち、全員で取り組むことがよいクラスになっていく方法と考えています。校内研究はあと2回ですが、このあとの全体リフレクションもよろしくお願ひします。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



・ 12月の校内研究

研究のまとめを作成していきます。

現時点でのけんきゅうのまとめ構想メモ

- 研究概要
- 校内研究の進め方
- 一枚指導案の掲載
- Padletによるリフレクションの掲載
- 先生方の授業実践の紹介

→ 実践の紹介をA4 1枚程度のレポートを作成していただきます。 メ切2月14日(水)
+ ICT研修の内容が入れられれば。(別でも良いですが。)

2 今後の予定

3学期 繁田先生の公開授業

2月 研究のまとめ・全体リフレクション・次年度の構想

校内研究だより

先日の校内研究ありがとうございました。教育について語り合う空間って好きです。短い時間でしたが、熱い話ができたのではないかと思います。もっともっと気軽にふらっと授業が見に行けるようになることを願っています。授業を見られたくない心理が働く先生もいるようなので、自信がないのかなあと思います。担任は担任の願いがあり、その願いの手助けをする教科担・担任外・その他の先生がいて子どもはよりよく成長すると思います。それぞれの先生の子どもへの願いもいくつか聞いてみたいと思います。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



・ 1月の校内研究

お願いしたいこと

★ Padletを確認し、入力していない部分の入力をお願いします。

<https://padlet.com/DaiSensei/padlet-gccpyf45ql1ezl2p>

★ 一枚指導案の修正

★ 授業実践の紹介 (A4 1枚で「こういうことしているよ」を全力アピールするもの)

→ メ切2月14日(水) 型に関して校内研究チームで後日コミュニケーション

2 今後の予定

3学期 繁田先生の公開授業

2月 研究のまとめ・全体リフレクション・次年度の構想



校内研究だより

研究のまとめの時期になりました。1年間それが研究主題を意識して授業をしてきました。校内研究で話し合い（リフレクション）を通して価値観が広がったり、授業改善したり良い研究になったでしょうか。校内研究は自分に生かすことが大事だと思っています。今回の授業で私は、インスピレーションをたくさんいただきました。一人一人が得意なことを広げ、さらにレベルアップする。そして学校全体がビルトアップして良い学校にする。そんな学校に憧れています。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



・ 2月の校内研究

16日 校内研究会（次年度計画）と1年間のリフレクション

★一枚指導案の修正

★授業実践の紹介（別紙） ▶ メチ2月14日（水）

★1年間の振り返り（Forms） ▶ メチ2月14日（水）厳守

→ Forms結果をもとに16日の校内研究会で1年間のリフレクションを行います。

繁田先生の公開授業（調整中）

2 今後の予定

- ・研究のまとめ配付
- ・校内研究チーム+校長で 次年度の校内研究のテーマ決定

3 別件

- ・現地教育事情等に関する調査・研究について
→ 読み合う時間を設けるのはどうか。（過去にやっていたようです。）

校内研究だより

1年間校内研究ありがとうございました。私がこの1年間進めてきた校内研究は、誰かに見せるための形だけの研究ではなく、本当の教員の資質能力の向上を意識した研究を目指してきました。指導案の型にこだわったり、まとめ方にこだわったり綺麗さは全く求めていません。「こんな考え方もあるのか」と視野を広げるきっかけになったり、教員の世界でありがちな「～すべき」「当たり前」を払拭したりできれば、いい研究になるのではないかと考えて計画してきました。

・ 確認事項

研究主題 「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



● 3月の校内研究

特にありません。後日、今年度の研究をまとめたものをPDFにします。
Teamsで連絡致しますので、各自保存して宝物にしていただけたら幸いです。

● 今後の予定

- Formsアンケート集計
- 研究のまとめ配付
- 校内研究チーム+校長で 次年度の校内研究のテーマ決定

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと



Evidence ▶ 実践データ

(写真や資料などのデータを貼り付けてください)



Result ▶ 効果や様子

- ・
- ・
- ・
- ・



Reflection ▶ 振り返り

Large empty rectangular box for reflection.

Research in Dubai Japanese School Report

Grade2 名前 重堂 真也

Subjects ▶ 研究主題

「主体性を引き出し、協働的に追究し続ける児童生徒の育成」
～自分で「決める」/自分たちで「考える」学びを通して～



Implementation ▶ 実践したこと

研究主題（副題）を意識して、また、他の職員の実践も参考にしながら、普段の授業づくりや行事への取り組みなど、日常の実践に努めた。



Evidence ▶ 実践データ



Result ▶ 効果や様子

意図的に、継続して実践することで、研究主題（副題）に沿った、目指す子供像により近づけた（子供達の成長や前向きな変化）と感じる一年間だった。次年度、研究主題は変わらると思うが、今年度の積み重ねを継続していきたい。



Reflection ▶ 振り返り

今年度の校内研究を通して、新鮮なもの（例. Padlet を使用した振り返り）が多く、取り組む中で勉強になったのはもちろん、非常に面白さを感じることが多かった。また、令和の授業スタイル（現学習指導要領で求められているもの）のようなものを、研究・研修を踏まえて、自分なりに構築できたことも大変財産となった。

○こちらは、振り返りで使用した Padlet

説明	重堂先生の研究授業	後藤先生の研究授業	リフレクション①	竹内先
<p>00 00</p> <p>↑タイトルには投稿者の名前を書きます。</p> <p>授業のリフレクションをお書きください。 (ここでのリフレクションとは、「心に強く残ったこと」「自分の気づき」とします。) 授業者に対しての意見は書きません。 自分に取り入れたいことや自分だったら「こうしたい」というプラスのアイディアを書いていきます。 思考より感覚で書くイメージです。</p> <p>*ダメ出しは書きません。 *箇書きで書きます。</p>	<p>葛原 孝紀</p> <p>・紙面上で考えたものを実際に取り組むことができるのは面白いと感じていたようでした。</p> <p>・子どもたちが「他のコースを遊びたい」と言っていたことから課題設定がよかったです。</p> <p>・(規模が大きくなるので)全員で1つのコースを作らせると楽しいのではないかと思いました。</p> <p>・整頓されていない適当に障害物を配置したコースをどう遊ぶかを考えたり、それをマイナーチェンジしたりするのも面白いと思いました。</p>	<p>磯川 祐樹</p> <p>・子どもたちが主体的に深い話し合いができる姿に感動しました。話し合いが一方通行にならず具体的な理由も伝えながら思考を深め合える素晴らしい話し合い活動だったと思います。校級内には安心して発言できる雰囲気があり、生徒がイキイキと自らの考えを発言する姿が非常に印象的でした。</p> <p>・最後の学習活動に「中国の詩を学習するのはなぜだろう」と問い合わせる工夫がされているところが非常に参考になりました。主体的な学習活動にするためには児童・生徒が常に「問い合わせ」をもって探究的な活動をすることで学びの深まりが出てくるのだと感じました。ロイノート</p>	<p>藤村 泰子</p> <p>研修の設定を有難うございます。共通する児童生徒を教えながら、なかなか授業を見に行くことが少ない中で、やはり学び合う機会と話し合う機会があることは貴重です。今日の研修はたくさんお話がてきて有意義でした。</p> <p>・『自己決定』の上に積みあがっていく学習や表現の喜びは大きいです。自分事になった事象の学習効果や活動などの成果が大きいことは日々実感していますが、自己決定力には個差がありどのようにこの力を伸ばしていくかがいいのか考える良い機会となりました。他教科での実践例などはとても参考になりました。</p>	<p>片野 文</p> <p>・授業をお振りに上手にています。 ・実際にけ表が楽しみで、発表をのものいいの</p>
<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>	<p>1</p>

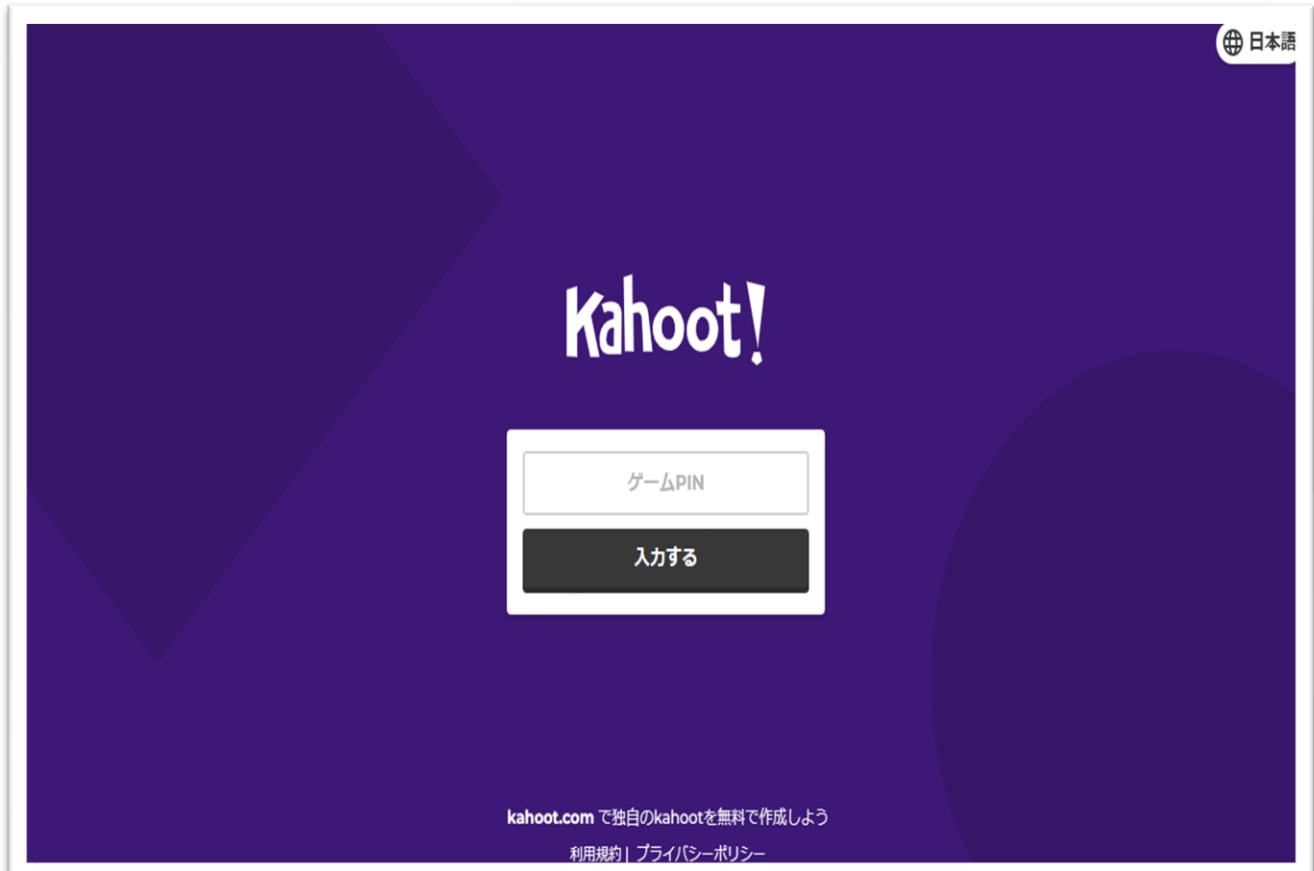
○こちらは、ミニ研修で扱った Canva

The screenshot shows the Canva homepage with the URL 'canva.com/ja_jp/' in the address bar. The header features the 'Canva' logo, navigation links for '注目のデザイン機能', 'ビジネス', '教育', 'プランと価格', and '学ぶ', and a search bar. Below the header is a large, bold text 'さあ、何をデザインしましょう？' (Let's design something!). A subtext below it reads 'Canvaを利用すると、プロフェッショナルなデザインの作成や共有が簡単にできます。' (Using Canva, you can easily create and share professional designs). A purple button labeled '無料で登録する' (Register for free) is prominently displayed. The main content area shows a preview of a design project for 'ミライ不動産' (Mirai不动产) featuring a smiling man, a house, and the text '販売中' (For Sale). To the right, there's a snippet of another project titled 'マーケティング担当者' (Marketing Manager) with the text '相談' (Consultation).

○こちらは、今年度から本格導入したロイロノート



○こちらは、ミニ研修で扱った Kahoot!



○以下、重堂の研究授業資料

一枚指導案

データ	想い
学年／教科 G2/体育科	児童生徒像 ・各教科において、協働の経験を少しずつ積み重ねている現状である。 ・協働的な学びの跡を視覚化や内省する意味でも、ロイロノートの活用場面を設定する。
単元／教材名 多様な動きをつくる運動遊び	
実施日時／授業者 2023年6月15日／氏名 重堂 真也	
単元の目標 ・色々な動きをすることができる。(知・技) ・グループで協力して考えたことを、他者に伝えることができる。(思・判・表) ・場の安全に気を付けることができる。(学びに向かう力、人間性等)	教材概 ・単元を貫いて、(教具も活用しながら) 多様な運動遊びを経験させてきた。 ・本単元と生活科の単元(一年生と遊ぼう)を教科横断的に実施してきた。 ・国工(創作活動)が大好きな子供達の実態も踏まえて、本時を設定した。
単元指導計画 ・毎時間、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動きなどをを行う。	
見どころ(指導概)～自分で「決める」自分たちで「考える」学び～	
・「決める」・・・指導者の指示・説明は最小限に、子供達の主体性を引き出す授業展開。 ・「考える」・・・既習事項も参考にしながら、仲間と協働し自分達で創り上げる活動。	

《本時》

本時の目標「多様な動きを取り入れたスポーツコースを作ることができる。」

学習活動 ★見どころ	指導上の留意点／評価
1 本時のめあてを確認する。(5分)	・本時のめあて(①色々な動きを取り入れよう、②グループで協力して考えよう、③安全に気を付けよう)を提示する。
2 ★グループに分かれて、スポーツコースを作る。(15分)	・指示・説明は基本的に行わない。 ・評価(知・技、学び、人間性等)
3 (ロイロノートで)自分達のコースの説明動画を撮影する。(5分)	・評価(思・判・表) (参観される先生方へお願い)
4 (提出された)各グループの動画を、全体で視聴(確認)する。(15分)	・振り返りに繋げる視聴(確認)の仕方を説明する。
5 (ロイロノートで)本時の振り返りを行う。(5分)	・振り返りの観点(自分達のグループの良かったところ、やってみたいと思ったグループのことなど)を提示する。 ・評価(学び、人間性等) (参観される先生方へお願い)

※ロイロノートの活用にまだ慣れていない子供達です。参観される先生方には、必要に応じてT2のような支援をしていただけます。
子供達(と指導者)にとって、せっかく参観される先生方とも協働の1時間にできればと考えています。
参観後、先生方には「どのグループのコースをやってみたいと思ったか」感想を『ロイロノート』→『壁紙』→『G2公開授業先生方の感想』に提出をお願いします。(ポイントは、めあての3つをクリアしているかです。いただいた感想は、後日子供達に発表させてください。)

参考資料

体育の授業に関するアンケート（5月29日（月）実施）

設問1. 体育は好きですか？

回答. 好き。 17名／17名

設問2. 体育のどんなところが好き、楽しいと思いますか？

回答. 体を動かすところ。

運動するところ。

縄跳びや色々なことができるところ。

跳び箱。

全部。

バスケット。

走ること。

ボール投げ。

G2 体いく「スポーツコースをつくろう」

◎めあて：①いろいろな うごきを 入れよう。
②グループで きょうりょくして かんがえよう。
③あんぜんに 気をつけよう。

○A グループ：こうたろうさん、いっせいさん、やまとさん、
ゆかさん、まやさん

○B グループ：りゅうたろうさん、あきらさん、さらさん、さんさん

○C グループ：おうりさん、あおとさん、さやさん、りのんさん

○D グループ：えいたさん、らふあえるさん、ことみさん、さわさん

(ステージがわ)			(ステージがわ)	
	A		B	
(入口がわ)	C		D	(入口がわ)

●どうじつの ながれ (じぜんに どうがで かくにん)

- ①3つの めあての かくにん (5分)
- ②じっさいに コースを つくる (15分)
- ③ロイロノートで せつめいどうがの さつえい (5分)
- ④さつえいした どうがを 見る (15分)
- ⑤ロイロノートで ふりかえり (5分)

G2 体いく「スポーツコースをつくろう」

★ () グループ

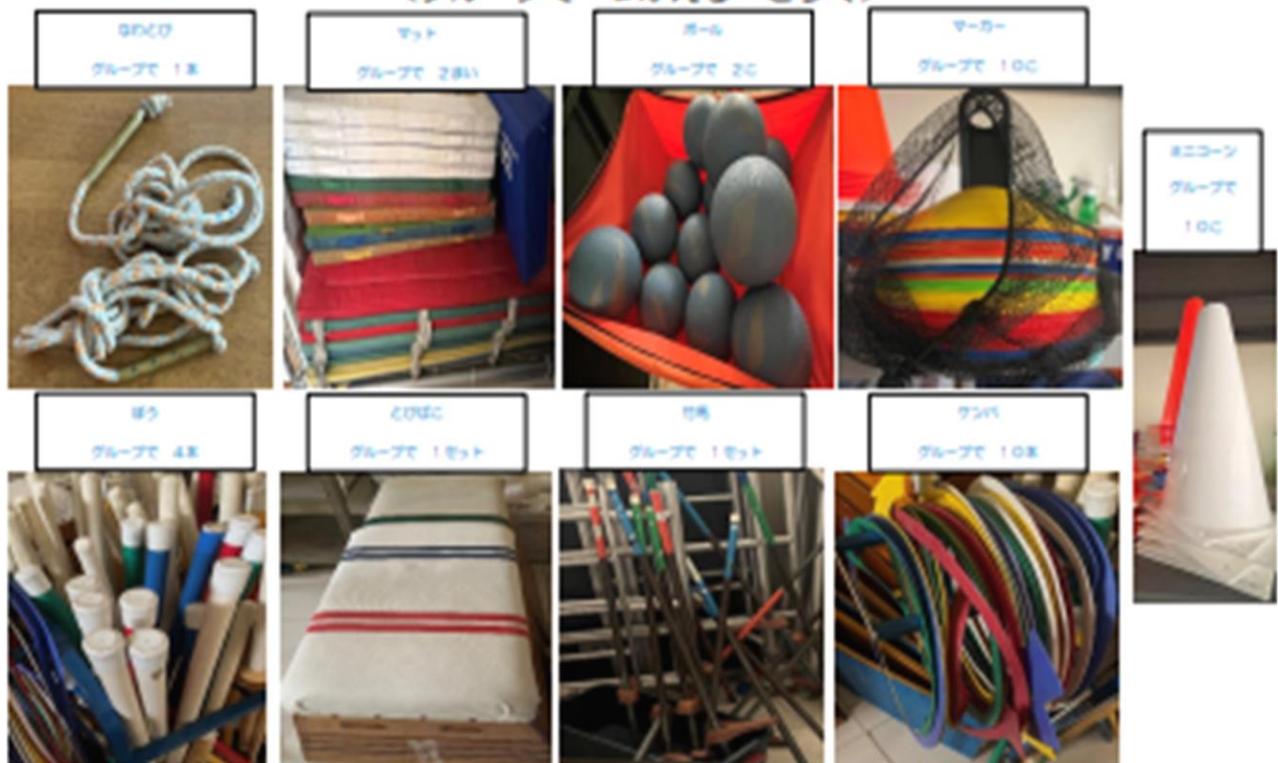
◎めあて：① いろいろな うごきを 入れよう。

② グループで きょうりょくして かんがえよう。

③ あんぜんに 気をつけよう。

★ どんなコースを つくるか グループで そうだんしよう！

＜グループで つかえる どうぐ＞



◎とうじつの コースづくり イメージ

2つ目は、今年度から「生徒指導委員会」を新しい分掌業務として立ち上げたことです。現在、本校では年々駐在員の家庭だけでなく、それ以外の仕事をされている家庭の子供達の編入学が大変増加しております。様々な家庭環境の子供達が集まることにより、生徒指導事案も日本で同様に起こりうるようなもの、ここでしか扱わないようなもの、様々なものがありました。それに対して、個々ではなく学校として対応する必要性が出てきたこともあり、生徒指導委員会を立ち上げ、私は生徒指導主任の命を受け、今年度奮闘しました。職員においても、小中の校種の違いだけでなく、全国各地から集まっていることもあり、一つ一つ合意形成を図りながら進めていく難しさとともに、やりがいも感じました。

生徒指導は、校内研究（教科の指導）と同様、学校経営上の主軸かつ両輪の分掌業務であると考えます。次年度も引き続き主任を任せさせていただく予定ですので、生徒指導の実践上の4つの視点「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を念頭に、本校の生徒指導をさらに一步進めていく所存です。

◎今年度実施した、新しい取り組み例

① 「生活目標」・・・学年ごとに具体目標の設定



② 「生活のきまり（一部抜粋）」・・・安心・安全のために、「見守る（付く）」対応

たいいくかん こうてい しょう 体育館と校庭の使用について(4~9月)

たいいくかん <体育館>

	あさ じかん 朝の時間	ドバイタイム	ひるやす 昼休み	ほうかご 放課後
げつようひ 月曜日	3・4	7・8・9 △朝T	1・2 △朝T	5・6
かようひ 火曜日	5・6	3・4 △朝T	7・8・9 △朝T	7・8・9
すいようひ 水曜日	7・8・9	1・2 △朝T	5・6 △朝T	1~4
もくようひ 木曜日	1・2	5・6 △朝T	3・4 △朝T	
きんようひ 金曜日				

あさ じかん ほうかご だんにん せんせいびた てきぎょううす み
※朝の時間と放課後は、担任の先生方が適宜様子を見ます。

③「児童生徒登校出迎え」・・・児童生徒理解の一助に

児童生徒登校出迎え担当(10月～3月)

○ねらい

- ・基本的生活習慣の育成を図る。(挨拶) ※R5 グランドデザイン「たくましい活動(体)」
- ・教室(授業)以外の場面における児童生徒の姿を把握し、さらなる児童生徒理解に努める。

○時間帯

- ・7:30～7:50頃(最終便到着まで)

※急な保護者対応等、緊急時を除いて実施。

パターン①	パターン②
磯川:バス出迎え 菅原:G1教室対応	重堂:バス出迎え 菅原:G2教室対応
額賀:バス出迎え 繁田:G3教室対応	後藤:バス出迎え 繁田:G4教室対応
伊藤:バス出迎え 藤村:G5教室対応	葛原:バス出迎え 藤村:G6教室対応
萩原:バス出迎え 片野:G7教室対応	佐瀬:バス出迎え 片野:G8教室対応
竹内:バス出迎え 校長:G9教室対応	

○実施予定日

10月	パターン	12月	パターン	2月	パターン
9日(月)	①	4日(月)	①	5日(月)	①
10日(火)	②	5日(火)	②	6日(火)	②
11日(水)	①	6日(水)	①	7日(水)	①
12日(木)	②	7日(木)	②	8日(木)	②
11月	パターン	1月	パターン	3月	パターン
6日(月)	②	15日(月)	②	4日(月)	②
7日(火)	①	16日(火)	①	5日(火)	①
8日(水)	②	17日(水)	②	6日(水)	②
9日(木)	①	18日(木)	①	7日(木)	①